

第4章 経済政策に関する 諸トピック (1)

応用マクロ経済学 2



教員：奴田原 健悟

<http://www.kengonutahara.com/teaching>

第4章のアウトライン

第4章の授業でやること

- ① 政策の効果の大きさ
- ② マネーサプライと信用創造
- ③ 政府負債に関するリカード派の考え方

参考文献：

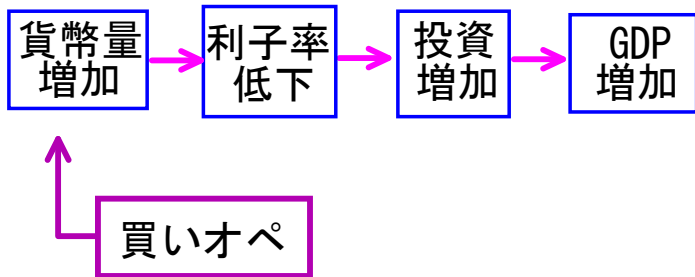
- ▶ 「入門経済学（第3版）」伊藤元重著（日本評論社）第13章
- ▶ 「マンキューマクロ経済学Ⅱ（応用編）第3版」（東洋経済新報社）
第4章4-3、4-4、第7章7-1

1. 政策の効果の 大きさ

参考文献：「入門経済学（第3版）」第13章

金融政策と利子率

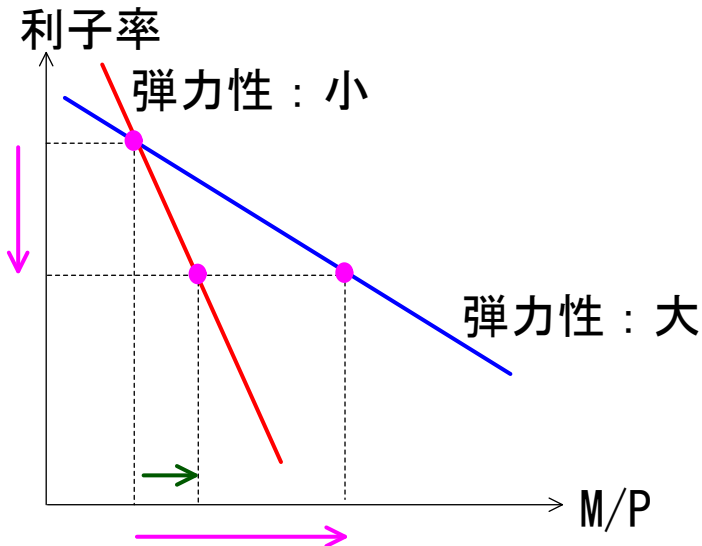
金融政策は _____ を低下させ、
_____ を刺激



: 利子率が1%上昇

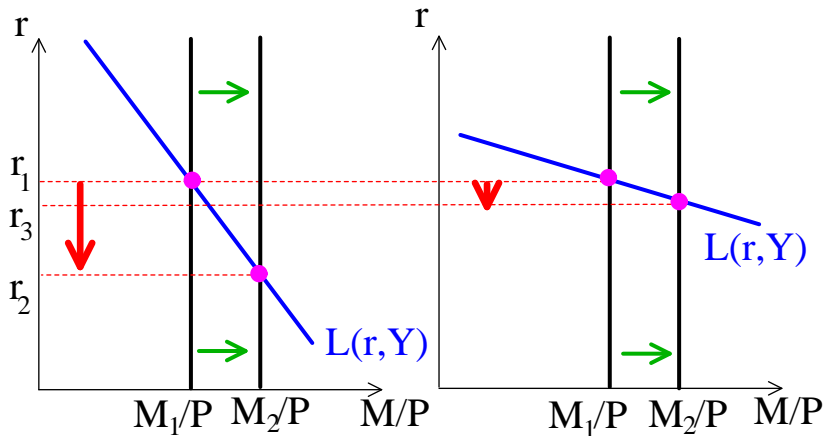
したときに、貨幣需要が何%変化（減少）するか
← 政策の有効性に重要！

貨幣需要の利子弾力性



貨幣需要の利子弾力性と利子率 (1/2)

(a) 利子弾力性：小 (b) 利子弾力性：大



貨幣需要の利子弾力性と利子率 (2/2)

貨幣需要の利子弾力性が大きいと...

利子率の低下幅が _____ なる

⇒ 投資増加量 : _____

⇒ 生産・所得増加量 : _____

⇒ 金融政策の効果 : _____

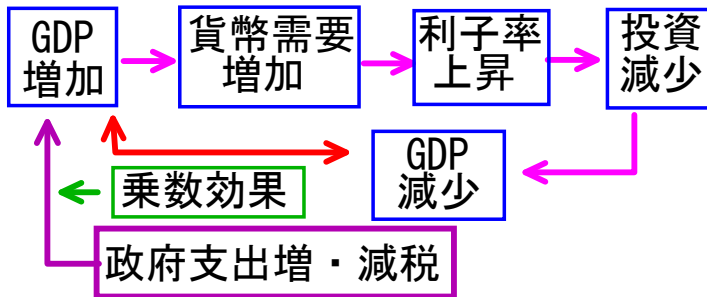
_____ : 貨幣需要の利子弾力性が
_____ で、金融政策が無効になる現象

- ▶ マネーサプライを増やしても、利子率が低下せず
投資・生産・所得への影響がない

財政政策とクラウドディング・アウト

財政政策の _____ から GDP を増加

⇒ しかし利子率上昇で _____ 減少



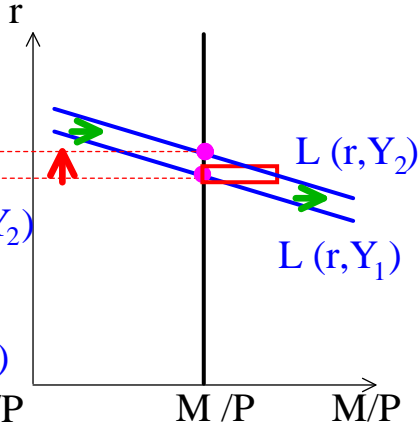
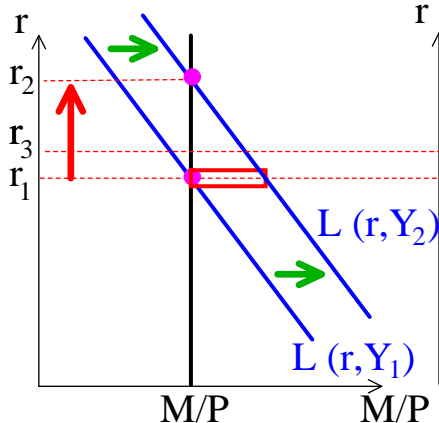
財政政策でも、「貨幣需要の利子弾力性」は重要な意味をもつ

貨幣需要の利子弾力性と利子率 (1/2)

Y の増加で同じだけ貨幣需要がシフトするとき

(a) 利子弾力性：小

(b) 利子弾力性：大



貨幣需要の利子弾力性と利子率 (2/2)

貨幣需要の利子弾力性が小さいと...

- ▶ 利子率の上昇幅が _____ なる

⇒ 投資減少量 : _____
(クラウディング・アウト効果大)

⇒ 生産・所得増加量 : _____

⇒ 財政政策の効果 : _____

金融政策との違い

- ▶ 金融政策 : 弾力性 _____ ⇒ 政策効果弱

- ▶ 財政政策 : 弾力性 _____ ⇒ 政策効果弱

2. マネーサプライ と信用創造

参考文献：「マンキューマクロ経済学Ⅱ（応用
編）第3版」
第7章の7-1

銀行貸し出しと信用創造 (1/2)

例：準備・預金比率 20%、現金・預金比率：50%

- (1) Aさんが100万円の現金を保有
- (2) Aさんが銀行に50万円を預金
- (3) 銀行は、50万円の預金のうち、_____万円を準備に、_____万円を企業Bに貸し出す

各段階でのマネーサプライを考えると

- (1) _____万円、(2) _____万円
 - (3) _____万円
- ⇐ _____によってマネーサプライが増加

銀行貸し出しと信用創造 (2/2)

部分準備制度：一部の預金は貸し出す

- ▶ 預金のうち、一部は企業に貸し出される

← 銀行貸し出しの分だけマネーサプライが増加
(_____ (貨幣創造) と呼ばれる)

前ページの例で、企業 B が貸し出しの一部を預金として保有すると、その預金を元手に銀行が新たな貸し出しを企業 C に行う
(さらにマネーサプライが増加)

100%準備制度：預金すべてが準備

- ▶ 貸し出しが行われないので信用創造なし

マネーサプライのモデル (1/2)

B : 中央銀行が直接操作

可能な貨幣

$$B = \underbrace{C}_{\text{現金 (Cash)}} + \underbrace{R}_{\text{準備 (Reserve)}}$$

上の式で、 $M = C + D$ の両辺を割ると

$$\frac{M}{B} = \frac{C + D}{C + R}$$

マネーサプライのモデル (2/2)

右辺の分子・分母を D で割ると

$$\frac{M}{B} =$$

(C/D : 現金・預金比率、 R/D : 準備・預金比率)

この式を書き直すと

$$M = \frac{C/D + 1}{\underbrace{C/D + R/D}} \times B$$

$$\text{貨幣乗数 } m = \frac{C/D+1}{C/D+R/D}$$

マネタリーベース B はその m 倍の貨幣を生み出す

- ▶ (high-powered money) :

マネタリーベースの別名

貨幣乗数の大きさ

- ▶ 準備・預金比率 R/D が高いと、貨幣乗数は

 - ▶ 現金・預金比率 C/D が高いと、貨幣乗数は

- ⇐ 信用創造の大きさと関連

計算問題

[問題] 現金・預金比率 0.2、準備・預金比率 0.05 のとき、マネタリーベースを 100 万円増加させると、マネーサプライはいくら増えるか

[解答] 貨幣乗数は

$$m = \frac{(C/D) + 1}{(C/D) + (R/D)}$$

だから、 $m =$

よって、マネーサプライは _____ 万円増加

中銀は M を完全に操作できるか？ (1/4)

貨幣乗数 m が一定なら操作可能だが、実際には

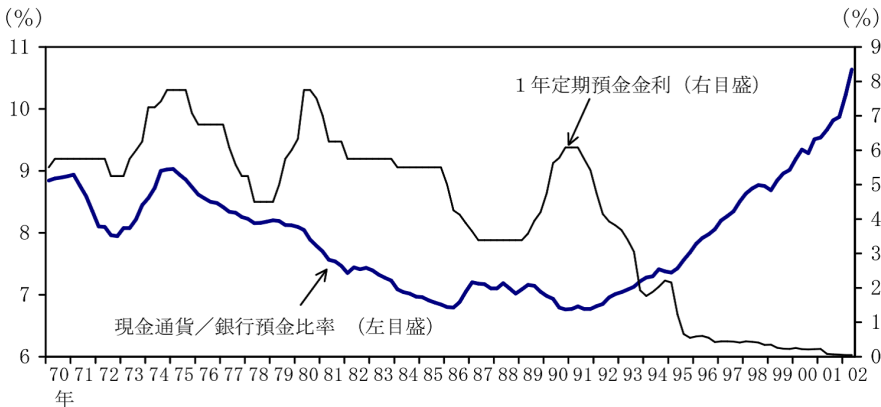
← 現金・預金比率 C/D も準備・預金比率 R/D も消費者や銀行の行動によって変化するから

以下の資料は、日本銀行企画室（現企画局）の『最近のマネタリーベースの増加をどう理解するか？』（2002年8月）

(http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2002/ron0208b.htm/)
から参照

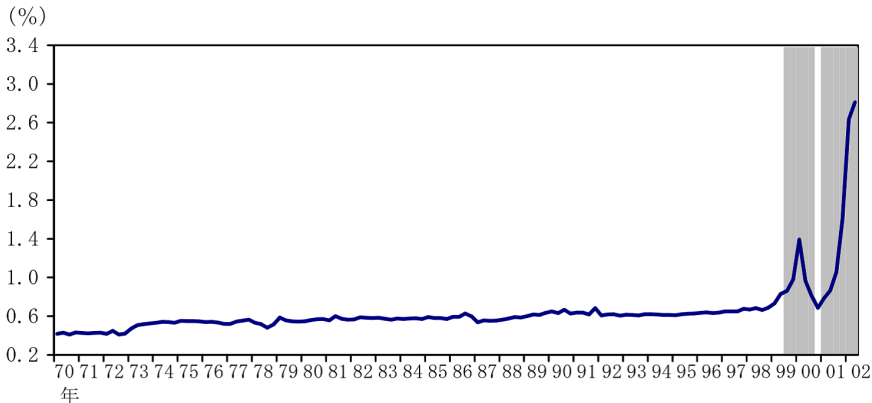
中銀は M を完全に操作できるか？ (2/4)

(2) 現金通貨／銀行預金比率



中銀は M を完全に操作できるか？ (3/4)

(3) 日銀当座預金／銀行預金比率

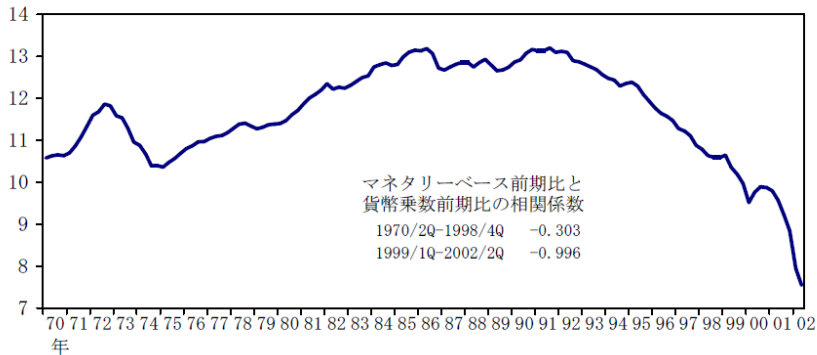


中銀は M を完全に操作できるか？ (4/4)

1990年代半ば以降の日本の貨幣乗数は不安定

(1) 貨幣乗数 (マネーサプライ/マネタリーベース)

(倍)



大恐慌時 (1930年代) の米国でも貨幣乗数は低下

3. 政府負債に 関する リカード派の考え方

参考文献：「マンキューマクロ経済学Ⅱ（応用編）」第4章の4-3、4-4

政府負債に関する伝統的見解

減税政策を政府負債（赤字国債発行）でまかなう
政策： $T \downarrow$

短期（IS-LMモデル）

- ★ 国民所得 Y _____、失業率 u _____
- ★ 実質利子率 r _____、投資 I _____、
国民貯蓄 S _____

長期（古典派モデル）

- ★ 国民所得 Y は _____
- ★ 実質利子率 r _____、投資 I _____、
国民貯蓄 S _____

リカード派の見解 (1/2)

(1772–1823) にもと

づく考え方.

(1944–) が

現代的なマクロ経済モデルで証明



リカード



バロー

リカード派の見解 (2/2)

(Ricardian Equivalence) :

「負債での政府資金調達」と「 での資金調達」がマクロ経済に与える影響は同じ

⇒ 「減税を負債でまかなう政策」は、たとえ
でも、消費・国民貯蓄・投資・所得など

に影響なし

「減税を負債でまかなう政策」の効果
= 「減税を増税でまかなう政策」の効果
= 「何もしない」の効果

リカードの等価命題 (2/3)

伝統的な見解と何が異なるのか？

これまでのモデル：人々は将来のことを考えず、いつも決まった _____ に従うと仮定

★ 例) _____ 一定の消費関数： $C = C(Y - T)$

← 政策によっては人々の限界消費性向は変化するかもしれない

※リカードの等価命題によれば、「減税を負債でまかなう政策」は人々の限界消費性向を _____ にする

